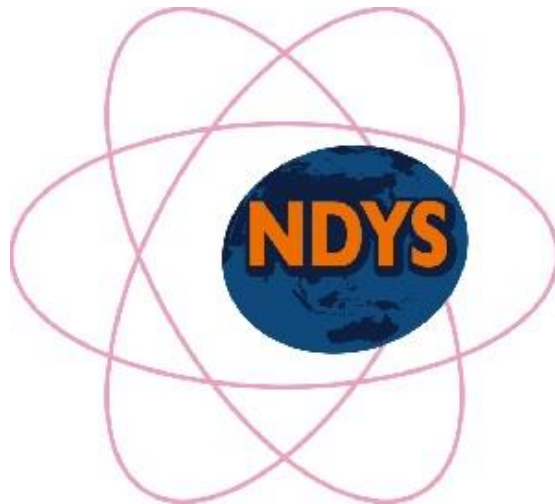


平成 26 年度 JEARN 活動報告書より抜粋

## 防災世界子ども会議（NDYS）

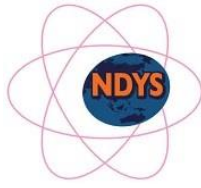
課題解決型「ICT を活用した国際協働学習」の実践



<http://ndys.jearn.jp/>

2015.6.13

防災世界子ども会議実行委員会



# 防災世界子ども会議 (NDYS) 2014-2015

防災世界子ども会議実行委員長 納谷 淑恵

プロジェクト創設者 岡本 和子

## 1. はじめに

「防災世界子ども会議」は、2005年、阪神・淡路大震災から10年を機に始まりました。その集大成として、ネットワークに参加した世界各地の子どもたちが、1年に一度世界大会やテレビ会議で顔を合わせます。

## 2. 目的と方法

21世紀、世界の教室はつながり、子どもたちはさまざまな国・地域の防災の「知恵」や災害から学んだ「教訓」を共有し、災害から命を守り、災害リスクを軽減する学びに取り組みます。

ICT(情報コミュニケーション技術)を活用し、『防災・減災』というグローバルな課題に多様な価値観をもつ人々と共に考え、連携・協働で取り組み、グローバルなマインドを育みます。

## 3. 活動内容

### (1) 2014年度の活動

阪神・淡路大震災から20年を迎える2015年1月に愛知県豊田市で「防災世界子ども会議」を開催いたしました。豊田市の協力のもと、多くの中学生の参加があり、日本の高校生並びに世界10か国から集まった参加者とともに、プロジェクトの発表並びに、NDYS2015宣言文を採択・発信しました。



「防災世界子ども会議 2015 in とよた」

URL: <http://ndys.jearn.jp/2015/index.html>

2015年3月15日、仙台で開催の第3回国連防災世界会議の関連イベントであるパブリックフォーラムの「防災教育フォーラム(パネリストとしてユネスコ本部からESD最高責任者も参加)」の中で、「世界に広がる防災の輪」という形で、「防災世界子ども会議2015 in とよた」の様子が放映され、ネットワークを活用した防災教育の促進事例として紹介されました。

(2015. 3. 19)

### (2) 2013年度の活動



平成26年度スーパーグローバルハイスクール(SGH)指定校 神戸市立葺合高校の発表

プロジェクト参加校は、JEARNの会での発表や、アイアーンのコラボレーションセンターで情報を共有し、成果を発信しています。神戸から、台湾、トルコ、ロシア、セルビアをつないだテレビ会議を実施し、NDYSメンバーの交流がなされました。また、台湾のシンディによる中国(深セン)でのワークショップでのポストカード作りなど独自の活動も行いました。

## 4. 成果と課題

10年を目標にスタートしたプロジェクトもついに10年を経過し、これまでの活動とこれまでに培った繋がりを大切にしつつ、新しい参加者を募り、新たな取り組みを行っていきたく考えます。

# 課題解決型「ICTを活用した国際協働学習」の実践

## 防災世界子ども会議（NDYS）と葺合高等学校の10年

神戸市立葺合高等学校 茶本 卓子

本校では、国際科2年生の「総合的な学習の時間」を「グローバルスタディーズ」と名付け、週2時間、英語で課題研究を行っています。その中に「防災」をテーマにしたプロジェクト学習があり、自然災害の発生メカニズムや減災ための対策を学び、安全マップや防災学習ゲームを作成しています。NDYSのネットワークに支えられ、この取り組みを、課題解決型「ICTを活用した国際協働学習」へと発展させることができました。

### 1. はじめに

防災世界子ども会議（NDYS）は、阪神・淡路大震災の10周年事業として、2005年1月18日、兵庫県淡路夢舞台で第2回国連防災世界会議「パブリックフォーラム」を開催され、本校はこのスタート時より、NDYSへ参加しています。

神戸市の中心に位置し、震災で3名の在校生を失った高校として、私たちには問題点を考察し、被害を最小に食い止めるため、防災学習を進め、発信していく責務があると考え、「阪神大震災の教訓」と題して英語と日本語で発表しました。この日、トルコ、イラン、インドネシアから参加の同世代の発表を聞き、またテレビ会議を通して、大地震の被災地であったイランのバムの高中生と震災からの復興について英語で意見交換をしました。



NDYS2005 イラン・バムとのテレビ会議  
第2回国連防災世界会議「パブリックフォーラム」

あれから10年、iEARNという組織が持つ世界規模のネットワークとICTを駆使することで、グローバル時代における双方向の国際協働学習が可能となり、この課題解決型の学びに継続的に取り組んでいます。

### 2. 目的と方法

NDYSの国際協働学習は、年度当初に事務局が示したテーマと課題について参加希望校が、アイアーンのコラボレーションセンターをプラットフォームとして、Web上で情報発信、共有しながら課題解決型学習を展開します。

そのまとめとして、ネットワークに参加した世界各地の小中高生が一堂に集い、合宿を行います。寝食を共にすることで、文化や宗教の違いを超えて、互いの理解が深まり信頼関係が構築されていきます。ICTを使ったオンライン学習やテレビ会議に加え、直接対話をしながらさまざまな国籍の若者が共同宣言を作り上げるためにディスカッションをします。学びあい、異文化交流の機会が友情の輪を広げ、子どもたちの絆をさらに深めています。

教員にとっても意欲の高い経験豊かな海外の先生方と目標をひとつにして課題研究を深めることができるこのプログラムは大きな刺激になっています。

### 3. 活動内容

実際の活動としては、年度のテーマ（2014年は、『異常気象と防災・減災について』）について、自国の現状を調査し、解決への対策を調べ、発表し、意見交換をしました。

さらに、課題や解決に至ったプロセスをレポートにまとめ、NDYSのWeb上に公開します。事前に各校のレポートを読んだ後、世界各地からみんなが集まった会議で、聴衆に理解してもらいやすいように、ステージ上で写真や図表をつけ、パワーポイントを用いた発表をしています。



NDYS2015

「防災世界子ども会議 2015in とよた」での発表

持参したポスターの前で各グループが一斉に、目の前の観客と双方向の意見交換や質疑応答を交えながらプレゼンテーションを行うこともあります。

さらに参加者が一堂に集まって防災関連の専門家の基調講演を聴いたり、問題解決のためのディスカッションを行ったり、ポスターや安全マップ、絵、オブジェなどを展示するなど、情報共有をします。そして最終日、共同宣言文を採択・発信します。



NDYS2015 参加国代表による「NDYS2015 宣言文の作成」  
司会進行&通訳を担当

使用言語は英語と開催国の母国語を使用し、バイリンガルで進行し、生徒たちは通訳や会議の司会進行を引き受けながら、互いのコミュニケーションを深めています。

英語が使えることは必要ではありますが、正しい知識に裏打ちされた意見をわかりやすく述べる力や言語・文化の違う人たちが気持ちよく意見交換ができる場を設定できる柔軟性と思いやりを持つことが大切であると考えます。



NDYS2014 アイアーン世界大会（アルゼンチン）

発表音声付き英語によるプレゼンテーションで参加

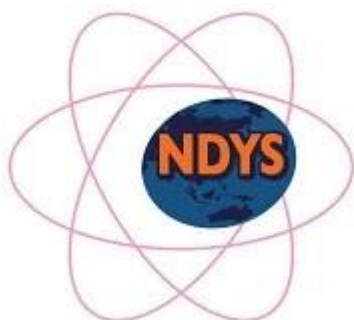
### 4. 成果と課題

淡路夢舞台から10年、参加した生徒たちは、自信と行動力をつけ成長してまいりました。課題解決に取り組む形の国際協働学習は、一つの学校では取り組みにくいものです。それがJEARNの手にかかれば、ネットワークを使って難なく実現してしまいます。少しでも国内外の学校が積極的にこの取り組みに参加してもらえることを希望します。そのためにもさらに意味のある斬新な企画とその成功を目指していければと考えています。



# 防災世界子ども会議

## Natural Disaster Youth Summit NDYS とは？



防災世界子ども会議は、国際協働学習を通じた防災教育の促進を目的としています。

インターネットをはじめとする ICT(情報通信技術)を活用して、小中高校の子どもたちが、さまざまな国・地域の防災の知恵や災害から学んだ教訓に関する「情報」を共有し、学びあうことを通じて、「自然災害の防災・減災」という地球規模の課題に取り組み、その成果を未来へ、世界へ発信する\*iEARNの日本発プロジェクトです。

半年間のネット上の協働学習の後に会議をもちます。そのミッションは、国境を越えた防災教育を通して、国際的な視野での防災意識を共有しながら、地球時代のそれぞれの地域の減災社会づくりに取り組むこと。そして持続可能な開発を可能にする社会づくりに連携・協力して取り組むことです。このため、ネットワークづくりを進めています。



\*iEARN (アイアーン International Education and Resource Network) は、世界 140 カ国、5 万人の教育関係者、200 万人の生徒 (2014 年 9 月現在) が、ネット上でつながっている教育 NGO (非営利事業組織) です。このネットワークを活用して、お互いの生活や文化の違いを話し合うものから、グローバル社会が抱える課題などを題材に、200 以上の国際協働学習プロジェクトを推進しています。

### ■ NDYS のはじまり

阪神・淡路大震災から 10 年を機に、ひょうごの子どもたちが核となり、「大震災の教訓を世界の子どもたちに伝えよう、命の尊さを考えよう！」という思いから始まりました。

近年起こっている災害から得た「情報」(教訓)に基づき、災害が引き起こす惨状に目をむけ、命を守る重要性を子どもたちに気づかせ、命を守る行動ができる子どもを育てることを目的として開催しました。10 年間の活動を通して、若い世代の防災教育のリーダーが育っています。



これまでの国際会議&テレビ会議

## ■ NDYS のプログラム

### 1. 災害安全マップづくり (リスクを伝達するツールとして)

各自の地域について過去の災害や防災の現状を知り、災害が起きたときの問題点を想定し、減災や備えの方法について考えることを学びます。その地図は地域の災害安全マップとして完成させます。各校のマップをひとつにまとめるとグローバル災害安全マップとなります。これまでに作った多くのマップを NDYS の WEB サイトに掲載しています。



NDYS2015in とよた イランの安全マップ

### 2. キッズ防災バッグづくり



NDYS2011inトルコ ポスターセッション

くまのぬいぐるみ、NDYS テディベアが「小さな防災大使」として、「キッズ防災バッグ」をもって交流校を訪問する異文化間交流プログラムです。「キッズ防災バッグ」は、自分のすむ地域の災害に備えて、必要なものは何かを考えて、子どもたちのための非常用の持ち出し品を入れてつくります。



NDYS 神戸フォーラム2007(人と防災未来センター)ので、複数の国・地域とのテレビ会議

## ■ ICT 活用による学びの環境



### ○ iEARN コラボレーション センター

iEARN の教育プログラムを推進する心臓部にあたりません。会員専用の WEB サイト、テレビ会議システム、コンテンツサーバーが提供されます。

全ての若者が、質の高い、異文化間で行われる国際教育を受けることを可能にする技術の力が、このアイアーン コラボレーション センターに反映されています。世界中の仲間とつながることができる場です。

30言語以上の言語で翻訳され、母言語でコラボレーションができます。

### ○ インターネットテレビ会議

リアルタイムでのコミュニケーション活動を通して、お互いのことを知り、学び、楽しく協働学習をすすめています。

### お申し込み方法

参加ご希望の学校は、JEARN (ジェイアーン iEARN の日本の窓口) の NDYS 事務局まで、Eメールでお申し込みください。詳しくは WEB ページ  
URL: <http://ndys.jean.jp/ja/>

NDYS 事務局：〒651-0073 神戸市中央区脇浜海岸通  
1-5-1 ひょうご国際プラザ気付 NPO 法人 グローバル  
プロジェクト推進機構 JEARN 神戸事務所内  
TEL : 078-593-9308 FAX: 078-593-0766  
E-mail: [ndys@jean.jp](mailto:ndys@jean.jp)